

「世帯類型に応じた高齢者の生活実態等に関する意識調査」より

日常生活での心配事の内容について

- 日常生活での心配事については、病気や介護に関する項目の割合が突出している（平成14年度：54.4%、平成17年度34.9%）。また、「頼れる人がいなく独りきりである」ことが3年間で倍増しており、高齢者のみの世帯が増加していることがうかがえる。

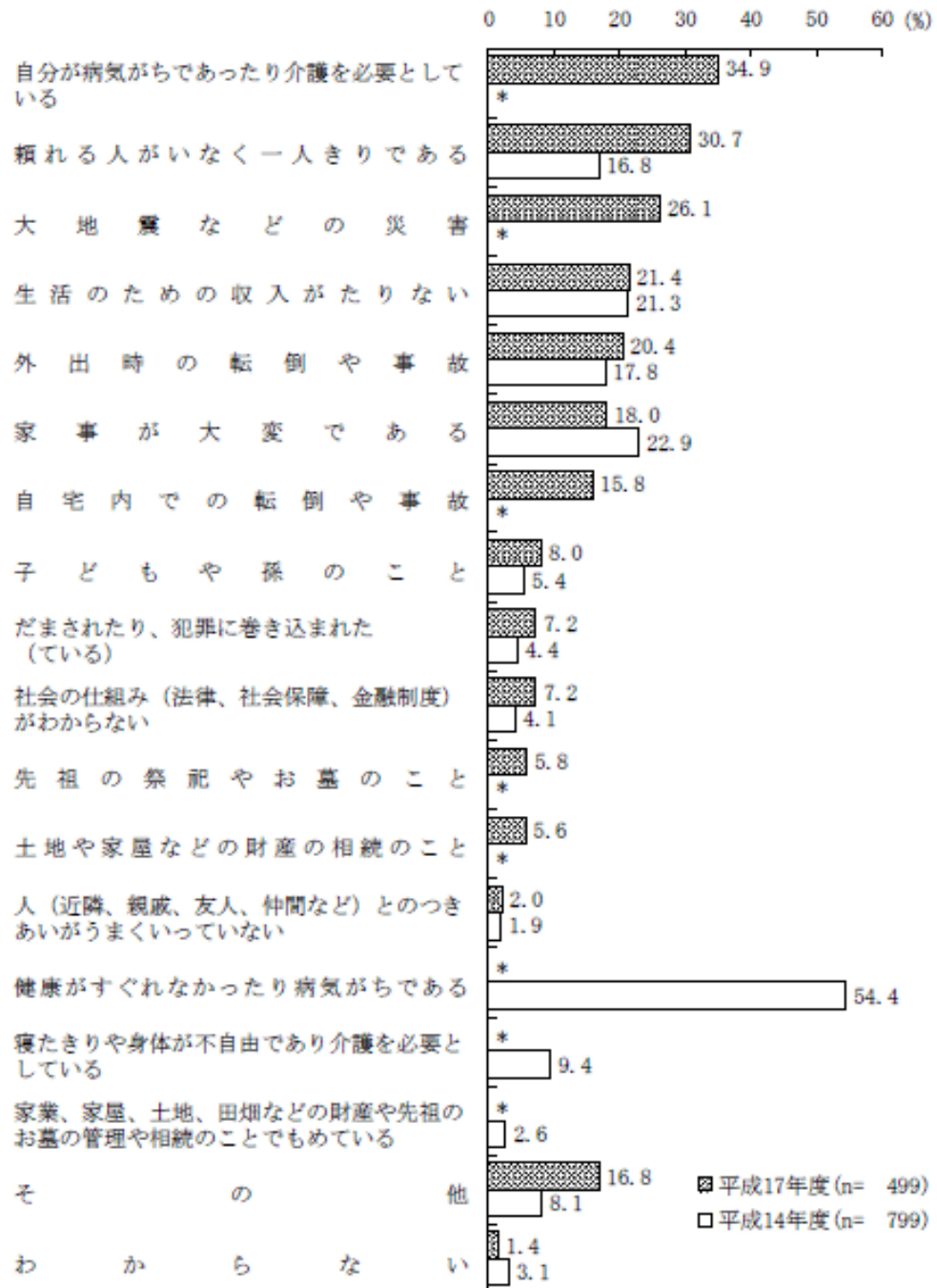


図 4-58 日常生活での心配事の内容

「人口減少・高齢化の進んだ集落等を対象とした「日常生活に関するアンケート調査」の集計結果（中間報告）」より

生活の上で困っていることについて

- 「近くに病院がないこと」(20.7%)、「救急医療機関が遠く、搬送に時間がかかること」(19.1%)、「近くで食料や日用品を買えないこと」(15.8%)についての割合が高く、それ以外については回答数にばらつきがある。
- 項目毎に第3位までにあげられた割合を見ると、前述の3項目に次いで、「サル・イノシシなどの獣があらわれること」(合計26.9%)の割合が高い。

	回答数			割合			第3位までの合計
	第1位	第2位	第3位	第1位	第2位	第3位	
近くで食料や日用品を買えないこと	229	140	161	15.8%	9.6%	11.1%	36.5%
近くに病院がないこと	300	234	90	20.7%	16.1%	6.2%	43.0%
救急医療機関が遠く、搬送に時間がかかること	278	216	119	19.1%	14.9%	8.2%	42.2%
子どもの学校が遠いこと	29	19	22	2.0%	1.3%	1.5%	4.8%
近くに働き口がないこと	120	85	62	8.3%	5.9%	4.3%	18.4%
郵便局や農協が近くになく不便なこと	40	98	84	2.8%	6.7%	5.8%	15.3%
携帯電話の電波が届かないこと(電波状態が悪いこと)	52	68	78	3.6%	4.7%	5.4%	13.6%
農林地の手入れが充分にできないこと	69	82	93	4.8%	5.6%	6.4%	16.8%
お墓の管理が充分にできないこと	7	14	14	0.5%	1.0%	1.0%	2.4%
サル、イノシシなどの獣があらわれること	133	123	135	9.2%	8.5%	9.3%	26.9%
台風、地震、豪雪など災害で被災のおそれがあること	92	100	105	6.3%	6.9%	7.2%	20.5%
自身・同居家族だけでは身のまわりのことを充分にできないこと	24	34	36	1.7%	2.3%	2.5%	6.5%
ひとり住まいでさびしいこと	28	24	54	1.9%	1.7%	3.7%	7.3%
近所に住んでいる人が少なくてさびしいこと	9	46	89	0.6%	3.2%	6.1%	9.9%
その他	42	11	21	2.9%	0.8%	1.4%	5.1%
有効回答	1,452						
無回答	397						

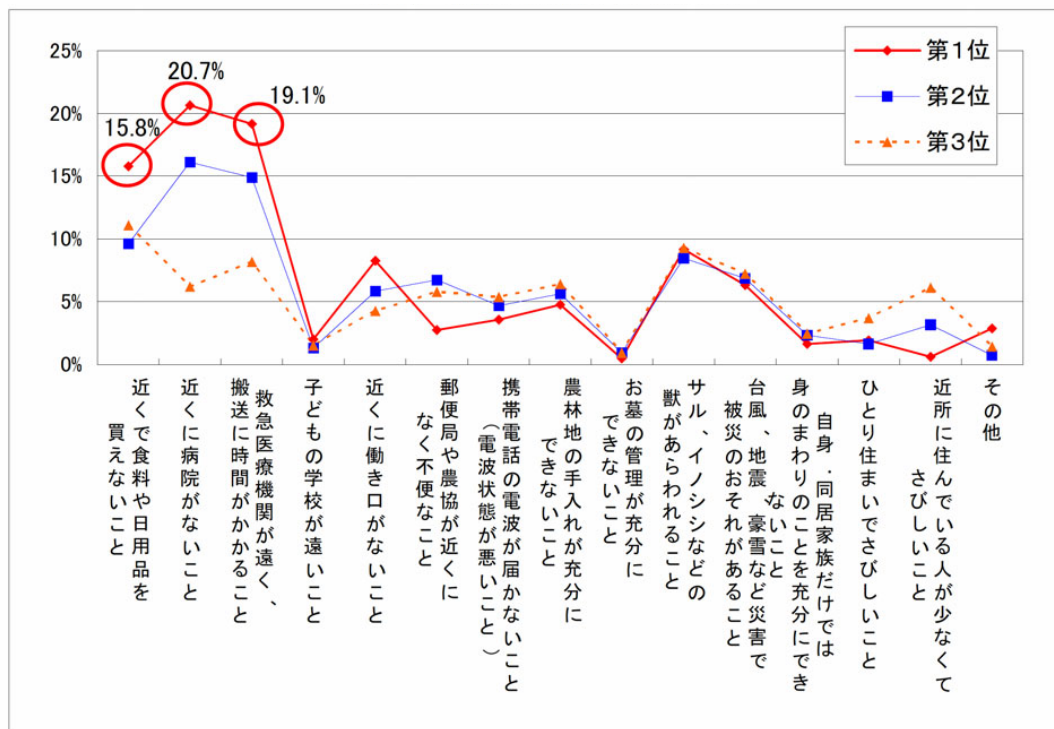


図 4-59 生活の上で困っていること

#### 4.1.3. 外国人の生活環境について

##### (1) 本調査で対象とした既往アンケート調査

外国人居住者が増加する中で、各県において、外国人居住者に対する意識調査が行われている。その中で、問題を整理すると、医療、仕事、移動などの日常生活や防災等における言語バリアに集約される。以下、各県で実施されているアンケート調査結果を取りまとめた。

##### 1) 富山県における既往アンケート調査

富山県では、以下のアンケート調査が実施されている（アンケート調査結果を参考資料に添付する）。

- ・「在住外国人に対するアンケート調査」

（調査期間：平成 18 年 6 月 30 日～平成 18 年 7 月 20 日）

- ・「外国人留学生に対するアンケート調査」

（調査期間：平成 18 年 6 月 21 日～平成 18 年 7 月 7 日）

ここでは、「在住外国人に対するアンケート調査」を踏まえ地域課題を抽出することとするが、参考資料として「外国人留学生に対するアンケート調査」のアンケート調査の中から、「留学してから苦労したこと」について記載する。

##### 「在住外国人に対するアンケート調査」

富山県では、「多文化共生推進プラン」の策定に際しての参考とするとともに、今後の県及び市町村の多文化共生施策や国際交流団体等の今後の事業企画・実施に際しての参考とすることを目的として、県内における外国人住民の生活実態等に関するアンケートを実施した。

調査概要は下記のとおりである。

##### 「在住外国人に対するアンケート調査」調査概要

調査期間：平成 18 年 6 月 30 日～平成 18 年 7 月 20 日

調査対象：富山県内に住む外国人（標本数 1,000）

調査方法：県内の各市（市役所窓口、小中学校等へ通う児童生徒の保護者）、国際交流団体、外国人が多く従事する事業所等を通じて、5カ国語（日本語、英語、中国語、ポルトガル語、タガログ語）で作成した調査票を配布・回収

回答数：481件（回収率 48.1%）

## 2) 石川県における既往アンケート調査

石川県では、県内在住外国人の生活実態や行政への要望を把握し、多文化共生・交流社会づくりを推進していく上での参考とするため、在住外国人並びに外国人が多く居住すると思われる県内の自治会等を対象に、下記の概要でアンケート調査を実施している。

### 「在住外国人に対するアンケート調査」調査概要

調査期間：平成 19 年 1 月～平成 19 年 2 月

調査対象：石川県内に在住する特別永住者を除く外国人 300 人

回答数：282件（回収率 94.0%）

### 「自治会等に対するアンケート調査」調査概要

調査期間：平成 19 年 1 月～平成 19 年 2 月

調査対象：石川県内の自治会・町内会の代表者 50 人

回答数：37件（回収率 74.0%）

## 3) 福井県における既往アンケート調査

福井県内における外国人登録状況を見ると、平成 18 年までの、ここ 10 年で 1.5 倍に増加しており、県の人口の 1.7%に及ぶ。また（財）福井県国際交流協会をはじめとする在住外国人の相談に応じている団体には、言葉や生活文化・習慣等の違いから生じる様々な生活相談が寄せられている状況である。そこで、在住外国人の困っていること、求めている支援を把握することを目的として、全県を対象としたアンケート調査が実施された。

### 「在住外国人アンケート調査」調査概要

調査期間：平成 19 年 8 月 21 日～平成 19 年 10 月 21 日

調査対象：福井県内に住む外国籍の方々

（但し、特別永住者は除く。対象 11,272 人）

調査方法：県内の各市町及び福井大学を通じて、5ヶ国語（ふりがなつき日本語、英語、中国語、ポルトガル語、韓国語）で作成した調査票を配布・回収

回答数：812件（回収率 79.9%）

#### 4) 新潟県における既往アンケート調査

新潟県では、外国人との共生社会構築に向けて、以下のアンケート調査を実施している。

- ・「平成 17 年度県民アンケート調査」

(調査期間：平成 18 年 1 月 20 日～平成 18 年 2 月 3 日)

- ・「新潟県在住外国人生活アンケート調査」

(調査期間：平成 16 年 6 月 28 日～平成 16 年 7 月 30 日)

「平成 17 年度県民アンケート調査」

文化や言語、生活習慣の違いを超えて、外国人が地域住民と相互理解を深めながら、共に安心・安全に暮らしていくことが重要である。県民の外国人定住に対する認識や課題などを把握することを目的としてアンケート調査を実施している。なお結果については、外国人と共に暮らしていく社会を実現するための施策を検討する際の参考とする。

「平成 17 年度県民アンケート調査」調査概要

調査期間：平成 18 年 1 月 20 日～平成 18 年 2 月 3 日

調査対象：県民アンケート調査協力員（200 人）

調査方法：郵便法

回答数：183件

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」

新潟県内在住する外国人の生活の実情や行政へのニーズなどを把握し、県・市町村における今後の行政施策に活用するとともに、広く県内の関係機関に情報提供を行い、県内における内なる国際化の推進を図るために調査を実施している。

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」調査概要

調査期間：平成 16 年 6 月 28 日～平成 16 年 7 月 30 日

調査対象：新潟県内に住所を持つ満 18 歳以上の登録外国人（対象 14,483 人）

調査方法：日本語版（ふりがな付き）とあわせ、対象者の国籍に応じて、英語、中国語、韓国・朝鮮語、ポルトガル語版を配布

回答数：601件（回収率 40.8%）

主に「新潟県在住外国人生活アンケート調査」の結果をもとに課題等の整理を行いつつ、関連箇所については「平成 17 年度県民アンケート調査」の結果を参照する。

## (2) 既往アンケート等調査から見た特徴

### 1) 日本語について

#### 日本語について

- 日本語を話すことについては、概ね6~7割程度は可能であるが、1割弱程度は全くできない状況である。
- 読むことについては、概ね5割程度が可能となっている。1割程度は全くできない状況である。

現在も取組まれているように、母国語での情報提供のほか、日本語教育機会の充実などが望まれる。

#### 「在住外国人に対するアンケート調査」(富山県)より

##### 日本語の理解度について

- 日本語を「話すこと」及び「聞くこと」については、どちらも、概ね6割以上の人が、ある程度可能なようだが、「読むこと」については、「簡単な漢字が読める」人は4割程度にとどまっている。
- 全体として、“日常会話はある程度可能だが、文字や文章等で書かれた情報を理解することは難しい人が多い”ようである。

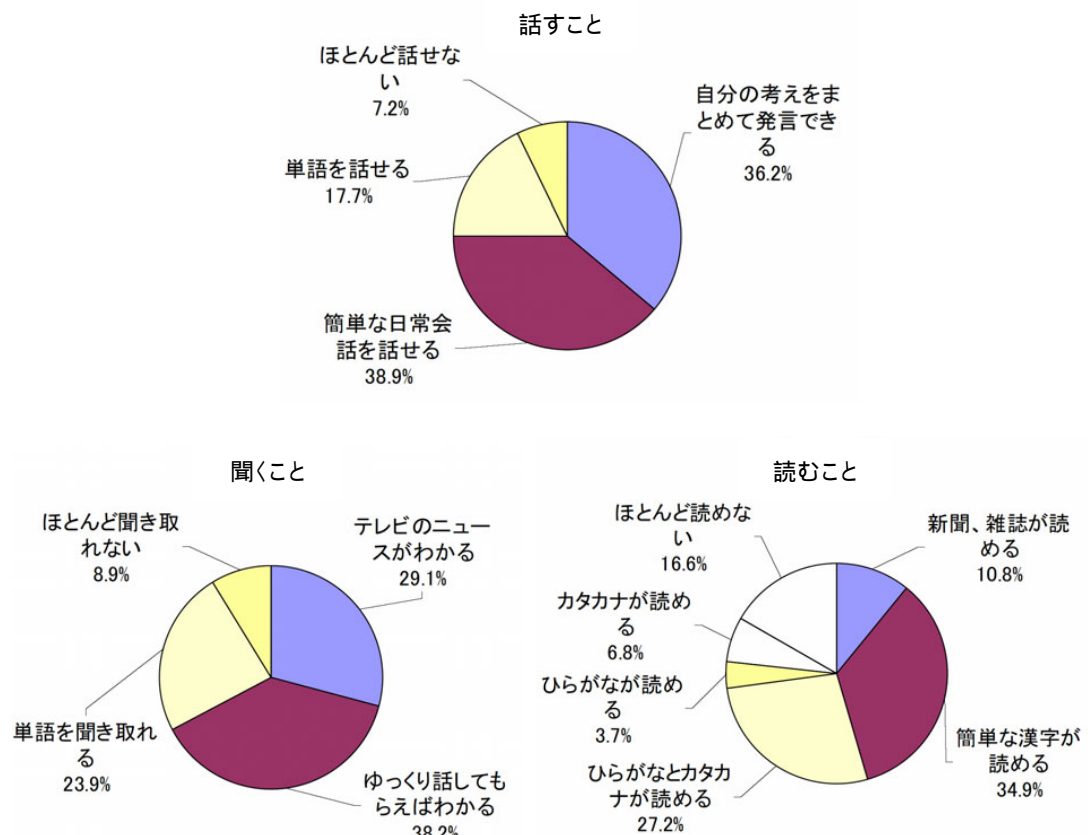


図 4-60 日本語の理解度 (富山県)

「在住外国人に対するアンケート」(石川県)より

日本語の能力について

- 日常会話が困難な人が約 26%、また読み書きが困難な人が約 34%いる状況である。

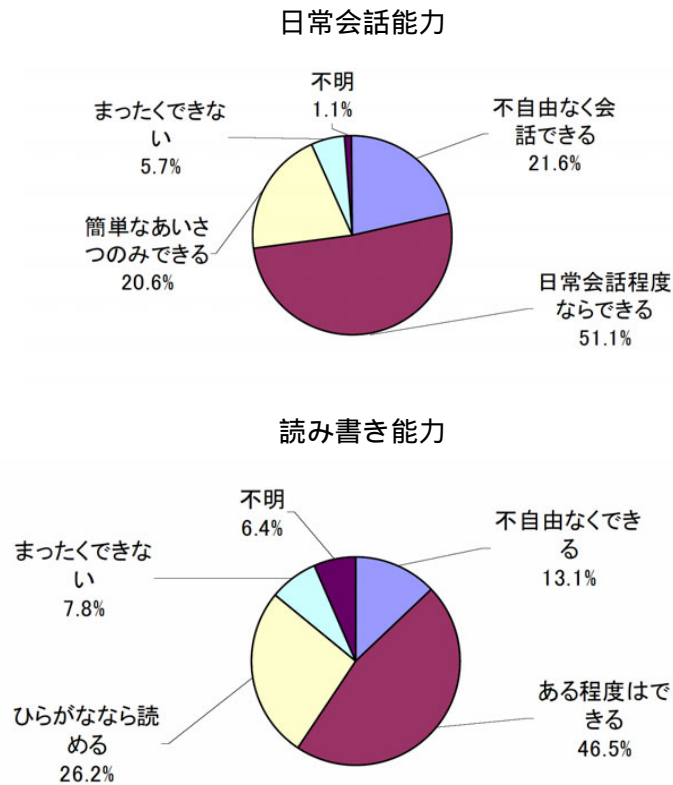


図 4-61 日本語の能力 (石川県)

「在住外国人アンケート調査」(福井県)より

日本語の理解度について

- 日本語について、「できる」「だいたいできる」と答えた人は、「会話」では約 5 割、「読むこと」および「書くこと」では 4 割弱。「できない」と回答した人は 1 割弱であった。

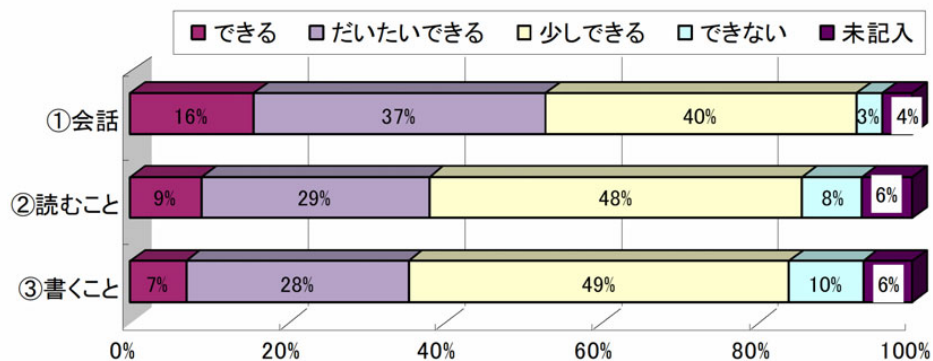


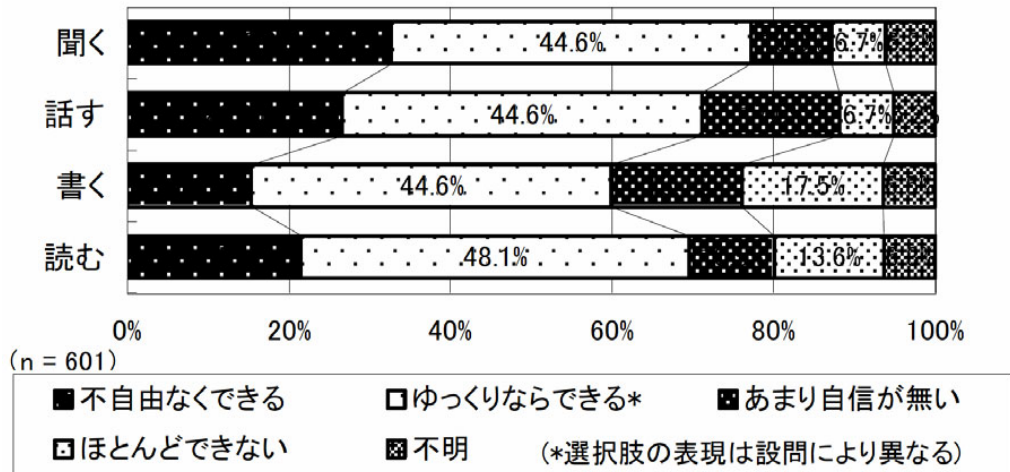
図 4-62 日本語の理解度 (福井県)



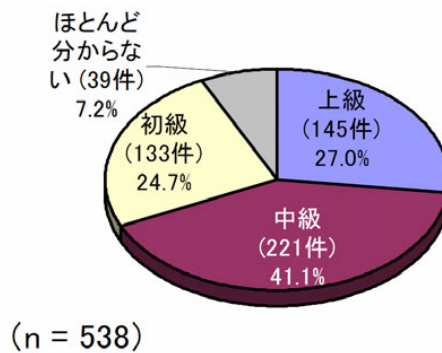
「新潟県在住外国人生活アンケート調査」(新潟県)より

日本語の能力について

- 日本語能力では、「不自由なくできる」は「聞く」が 32.6%で最も高く、次いで「話す」が 26.6%、「読む」が 21.5%、「書く」が 15.3%の順序となった。一方、「ほとんどできない」は「書く」(17.5%)と「読む」(13.6%)で1割以上みられた。全般的にみて「書く」ことは他に比べ難しいようであった。



日本語能力評価(※)



外国人の日本語能力を総合的に評価する試みとして、ここでは「聞く」、「話す」、「書く」、「読む」の各回答を1～4の4段階に分類(「不自由なくできる」=1～「ほとんどできない」=4)し、その合計値を「上級」(4～6)、「中級」(7～9)、「初級」(10～13)、「ほとんど分からない」(14～16)に区分して指標とした。

図 4-63 日本語の能力(新潟県)



## 2) 住まいについて

### 住まいについて

- 住まいに関しては、「家賃」に困っている人が多く、また、住まいを探す際には、日本の住宅賃貸借契約に戸惑ったとの意見が多い。

「留学生住宅総合保障制度」( (財)日本国際教育支援協会) の活用・斡旋や、川崎市で実施されている「川崎市居住支援制度」などの創設、また HP 等での情

### 「在住外国人に対するアンケート調査」(富山県)より

#### 住まいについて困ったことについて

- 住まいを探すときに困ったことは、「保証人を見つけること」や「日本人でないことを理由に断られた」などの答えが多かった。

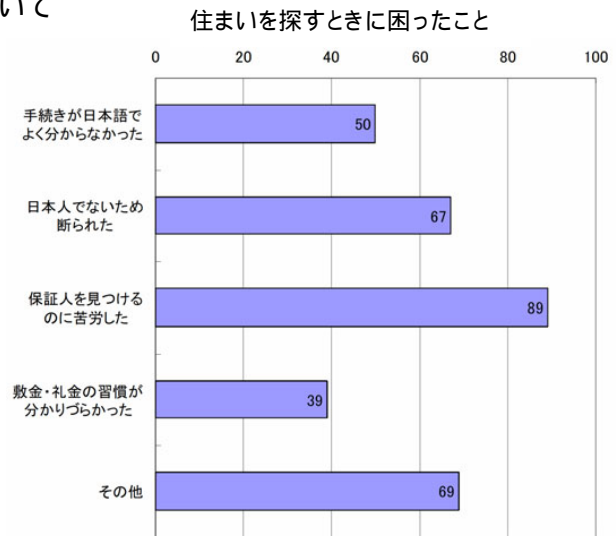


図 4-64 住まいについて困ったこと(富山県)

### 「在住外国人に対するアンケート」(石川県)より

#### 住まいについて困ったことについて

- 特に困っていることはないと回答した人が半数以上いるなか、困っていることの上位としては、「家賃が高い」(約 24%)、「交通の便が悪い」(約 11%)となっている。
- しかしながら、前述の日常生活全般に対するアンケート結果では、金沢地区における「住まいに関する悩み・心配事」の割合が高くなっていることから、住まいの都市環境を色濃く反映する結果となっている。

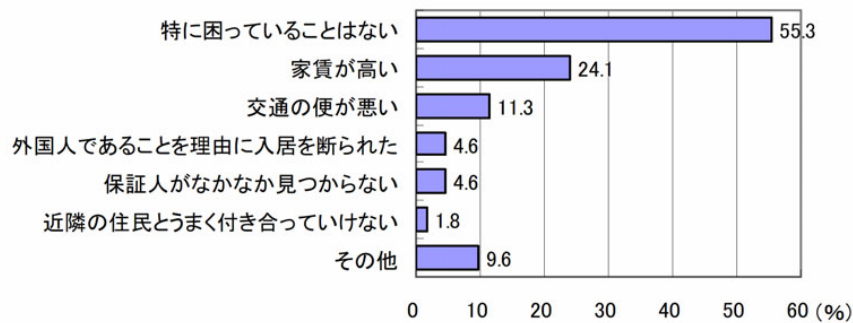


図 4-65 住まいについて困ったこと(石川県)

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」(新潟県)より

住まいについて困ったことについて

- 日本で住まいを探す時に困ったこととしては、「日本の家賃が高い」が27.5%、「賃貸契約に礼金、敷金などが必要だった」が20.8%、「保証人を見つけるのが難しかった」が15.3%、「外国人であることを理由に断られた」が12.1%などの順序であった。一方、「特に困ることはなかった」との回答は46.3%と回答者のほぼ2人に1人となっている。

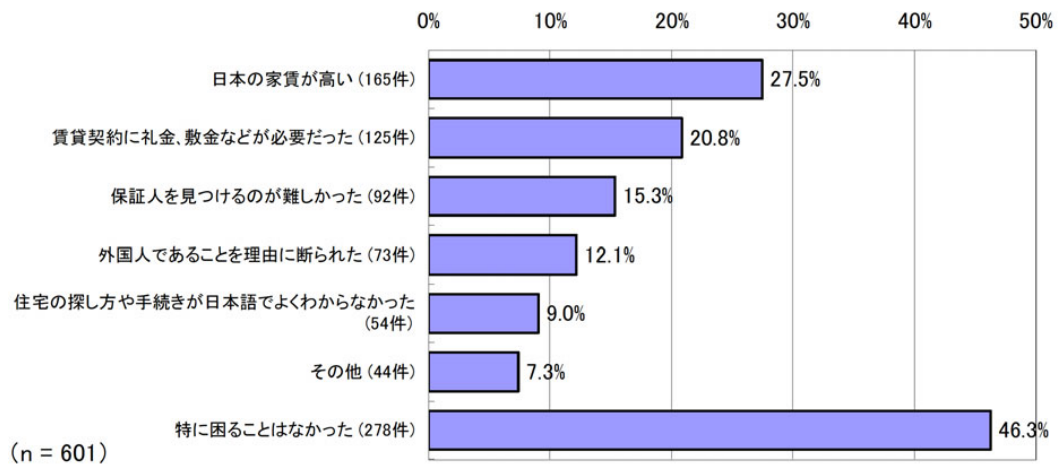


図 4-66 住まいについて困ったこと (新潟県)

### 3) 医療・保険について

#### 医療・保険について

- 病院や診療所で困ったこととしては、主に「医療費が高いこと」、そして「医師・看護婦とのコミュニケーションがとれないこと」である。

病院等での母国語の通訳を望む人が多いが、なかなか現実的ではないため、保険制度の説明や母国語で対応可能な病院等の情報など、情報提供面で具体的な施策を展開することが望まれる。

#### 「在住外国人に対するアンケート調査」(富山県)より

##### 医療・保険で困ったことについて

- 病院や診療所で困ったこととしては、「医療費が高いこと」や、問診票の理解や症状の説明などの「言葉(日本語)の問題」が多い。

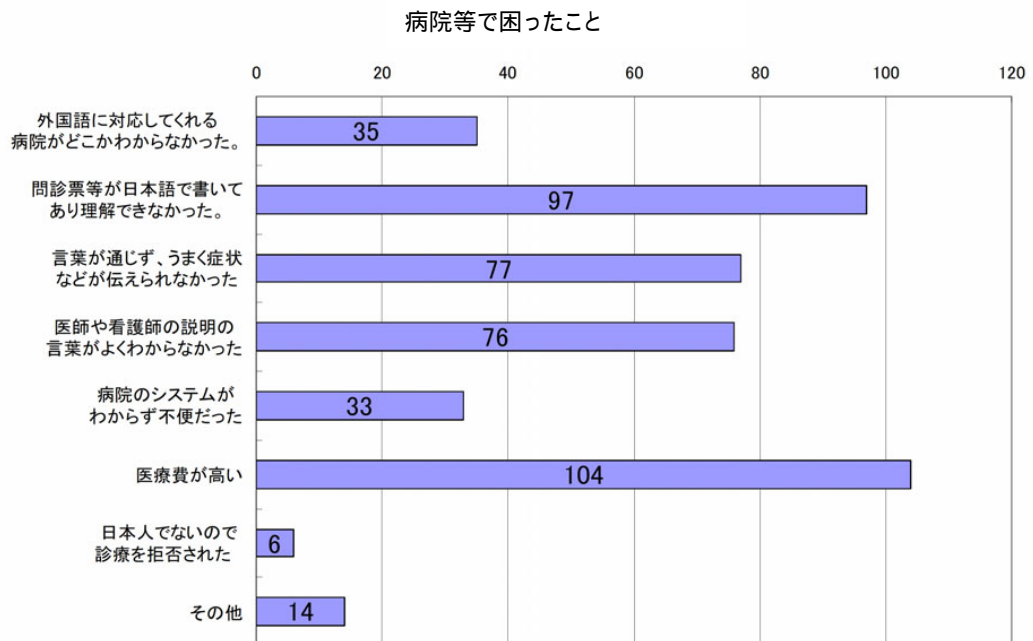


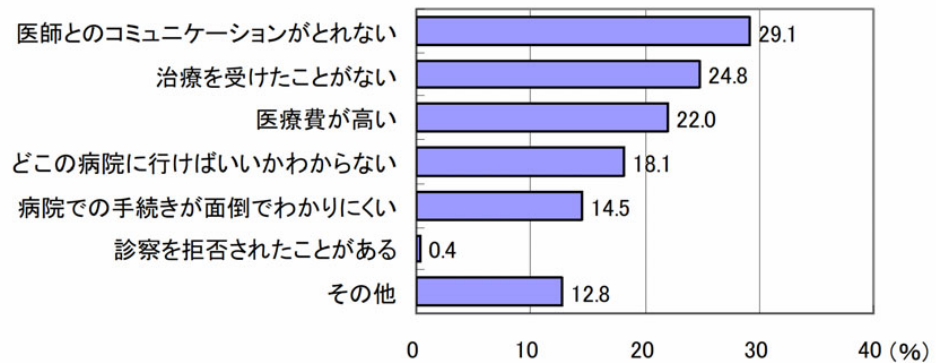
図 4-67 医療・保険で困ったこと(富山県)

「在住外国人に対するアンケート」(石川県)より

医療・保険で困ったことについて

- 病気やケガの時に困ることとしては、「医師とのコミュニケーションがとれない」が約 29%と最も多く、次いで「医療費が高い」の約 22%となっている。
- そのため、医療に望むサービスとしては「病院等での母国語の通訳」(約 33%)、「保険制度の説明」(約 27%)が上位になっている。

病気やケガのとき困ること



医療に望むサービス

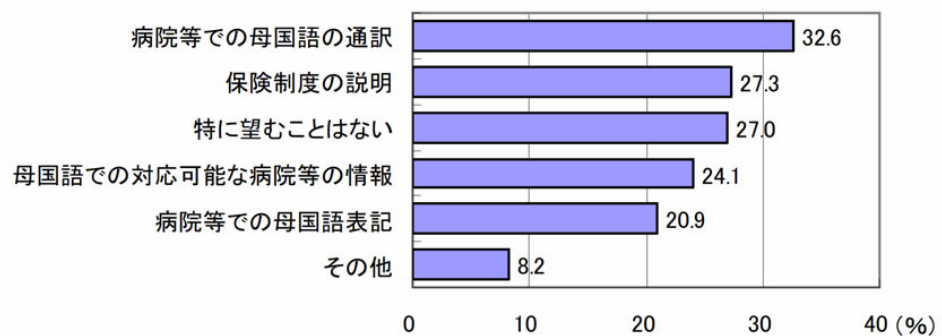


図 4-68 医療・保険で困ったこと(石川県)

「在住外国人アンケート調査」(福井県)より

医療・保険等で困ったことについて

- 災害情報の入手方法 (38%) に次いで税金、健康保険のこと (28%) が困ったこととしてあげられている。外国人にわかりやすい非常時における情報提供や相談窓口の充実が求められている。

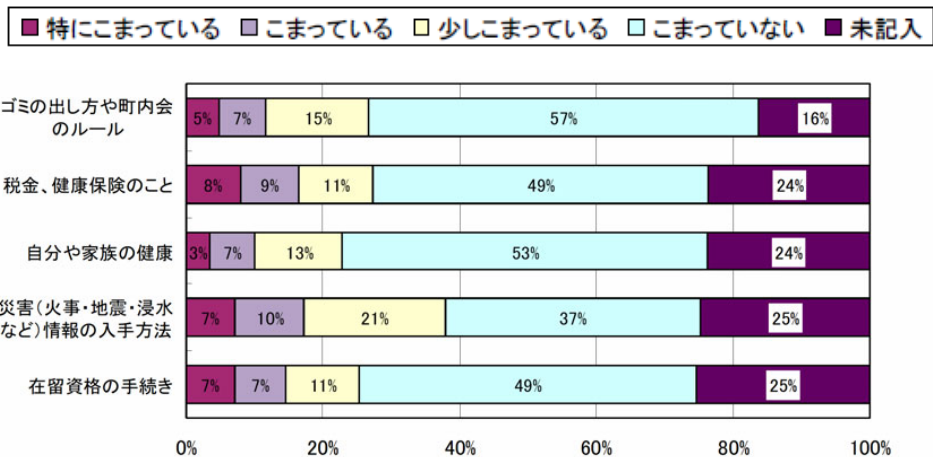


図 4-69 医療・保険等で困ったこと (福井県)

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」(新潟県)より

医療・保険等で困ったことについて

- 日本の病院で困ったことや不満に思っていることでは、「医療費が高い」が 33.3%、「十分なコミュニケーションがとれない」が 25.0%、「病院について情報が少ない」が 15.1%、「診断結果や治療方法が説明されない」が 11.3%、「診察時間など病院の仕組がわからない」が 11.0%などの順序であった。一方、「特にない」との回答は 35.9%と全体の 3分の1強となっている。

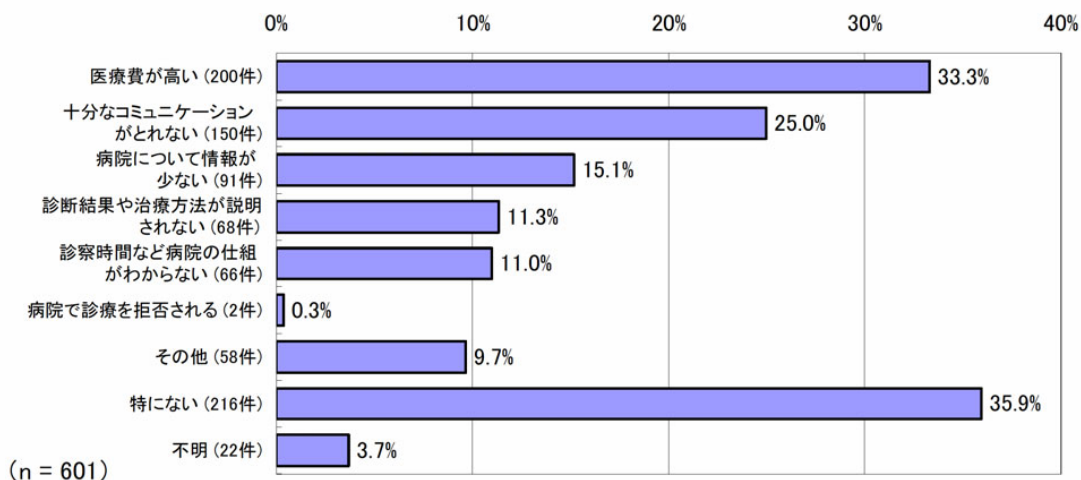


図 4-70 医療・保険等で困ったこと (新潟県)

#### 4) 子育てについて

##### 子育てについて

- 病院等で困ったこと、と同様に「保育士等とのコミュニケーション」や「出産費用」、「育児情報の不足」などが課題として挙げられる。

様々な情報提供やICT等を活用した日本語教育機会の提供など、また地域住民によるサポートするなど、多面的に、総合的に施策を展開する必要がある。

「在住外国人に対するアンケート調査」(富山県)より

##### 子育てで困ったことについて

- 育児で困ったことでは、「保育士や先生とのコミュニケーションが取れない」、「出産費用が高い」、「相談相手がいない」などの意見が多かった。

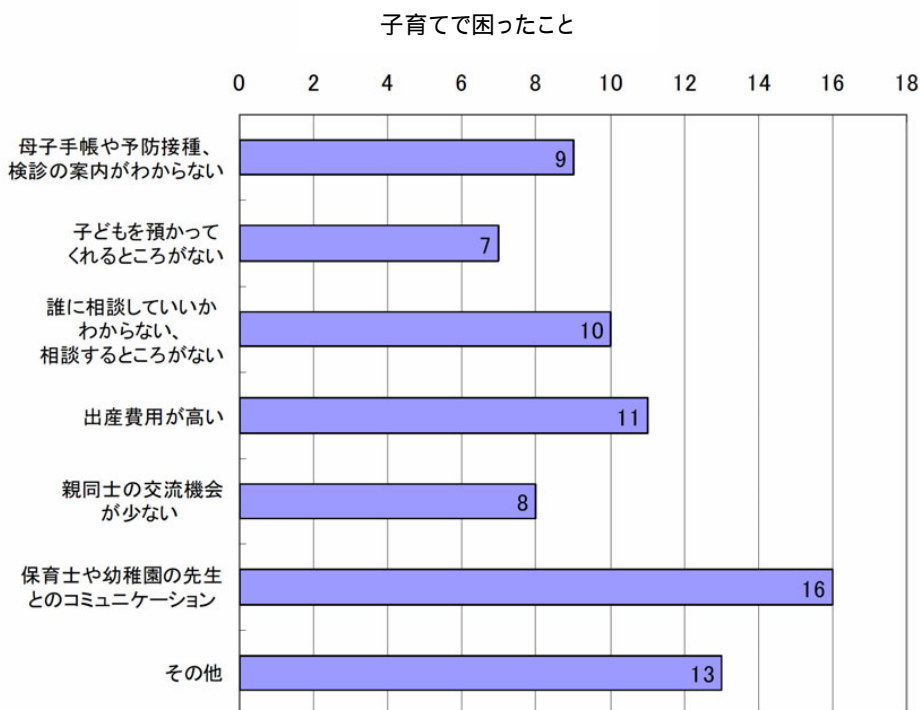


図 4-71 子育てで困ったこと(富山県)

「在住外国人に対するアンケート」(石川県)より

子育てで困ったことについて

- 子育てをする上で、困っていることは「特にない」と回答した人が最も多いなかで、困り事としては「育児の情報が入らない・理解できない」(約13%)、「ママ友同士の付き合いが難しい」(約8%)の回答が多い。

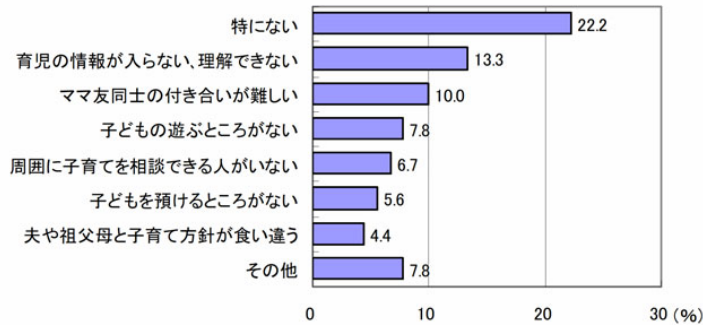


図 4-72 子育てで困ったこと(石川県)

「在住外国人アンケート調査」(福井県)より

子育てで困ったことについて

- 未記入者(子どもがいない方など)を除くと、1割強の人が「特にこまっている」「こまっている」と回答している。

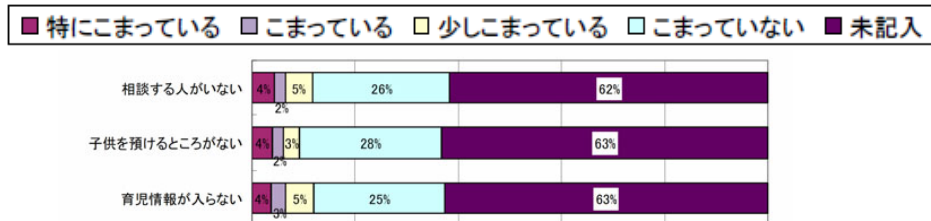


図 4-73 子育てで困ったこと(福井県)

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」(新潟県)より

子育てで困ったことについて

- 5歳以下の子どもがいる場合の子育ての上の心配事では、「子育ての習慣や環境が母国と違う」が35.7%で最も多く挙げられた。以下、「乳幼児検診や予防接種の案内などが日本語でよくわからない」が30.8%、「保育料が高い」が30.0%などの順序となっている。一方、「特に心配事はない」との回答は33.5%で全体の3分の1を占めた。

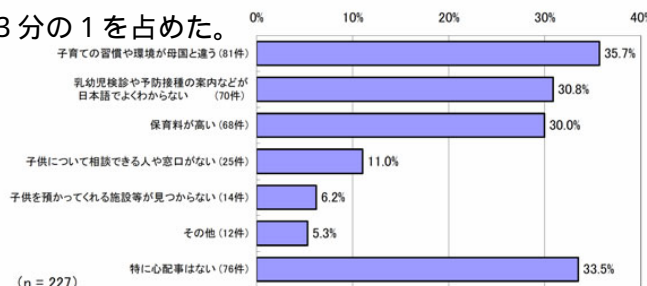


図 4-74 子育てで困ったこと(新潟県)



5) 仕事について

仕事について

- 仕事における課題は、基本的に、企業・職場で解決するものが多い。行政としては、このような課題があることを企業側に伝えるとともに、解決に向けた制度面等での支援を実施する必要がある。

「在住外国人に対するアンケート調査」(富山県)より

仕事における課題について

- 仕事で不満に思うこととしては、アルバイトやパート、派遣社員が多いためか、「解雇されるか不安」が最も多く、次いで「雇用保険に未加入」、「賃金が安い」の順であった。

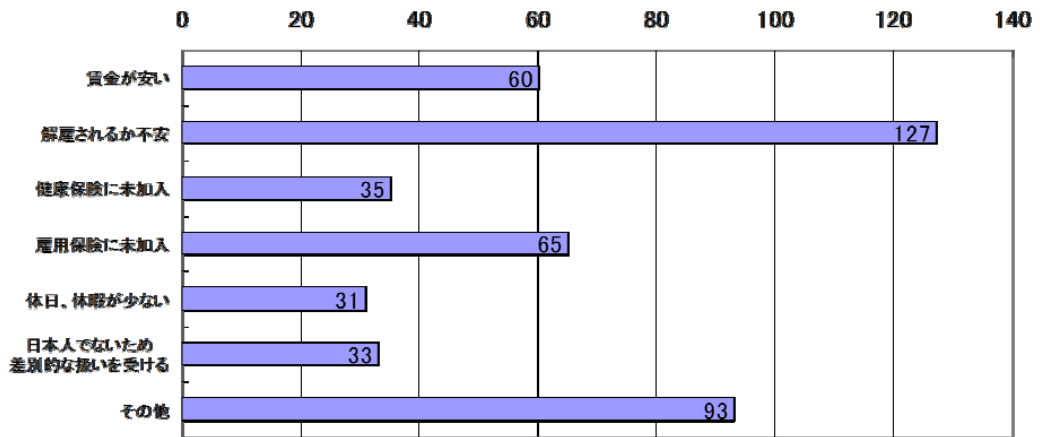


図 4-75 仕事における課題(富山県)

「在住外国人に対するアンケート」(石川県)より

仕事における課題について

- 約半数近くが、不満や困ったことは「特にない」と回答しているが、仕事における不満や困ったこととしては、「賃金が安い」(約 23%)をはじめ、困った時の相談や職場の人間関係をあげる人が多い。

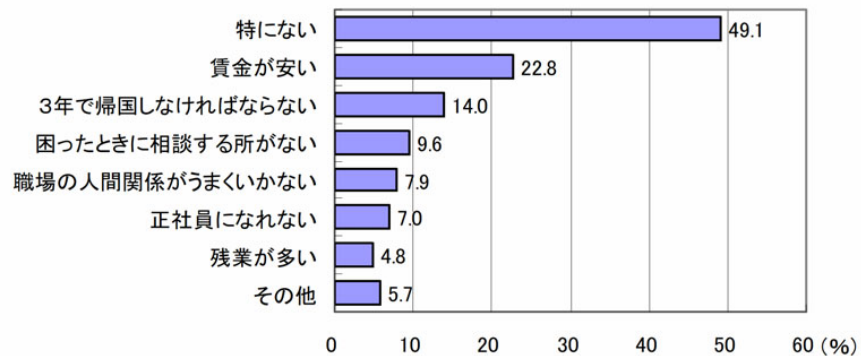


図 4-76 仕事における課題(石川県)

「在住外国人アンケート調査」(福井県)より

仕事における課題について

- 仕事については、2割弱の人が「特にこまっている」「こまっている」と回答している。

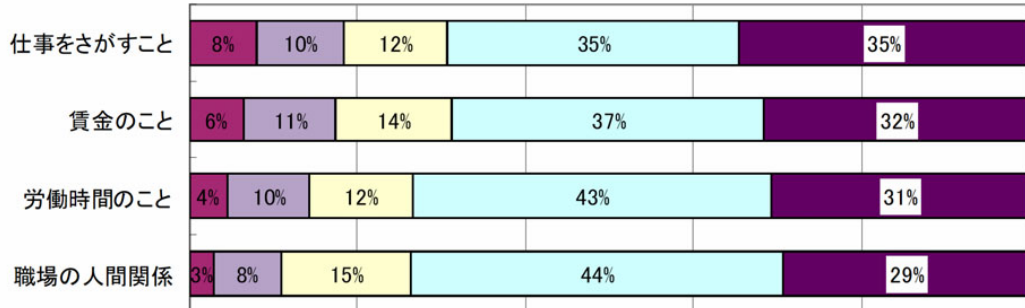


図 4-77 仕事における課題 (福井県)

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」(新潟県)より

仕事を探す際に困ったことについて

- 仕事を探す際に困ったこととしては、「待遇面で日本人と差別がある」が26.3%、「自分の能力や技術を発揮できる職がない」が21.7%、「就職に関する習慣や制度が母国と違う」が18.1%などの順序となっている。一方、「特に困ったことはなかった」との回答は42.1%で4割以上となった。

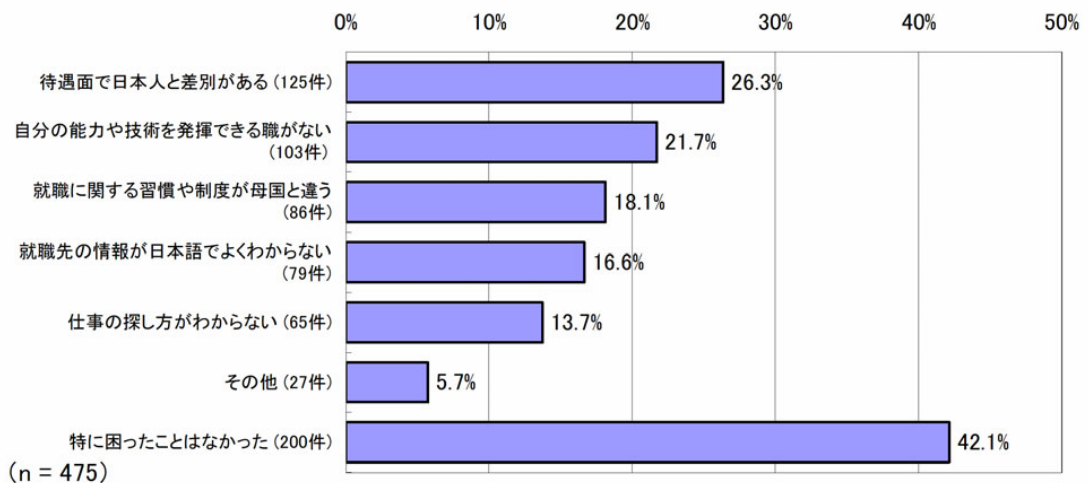


図 4-78 仕事を探す際に困ったこと (新潟県)

### 仕事をする上での心配事・不安について

- 日本で仕事をする上での心配事や不安としては、「税金の仕組みが分からない」が 23.3%、「正社員になれない」が 17.2%、「相談するところがない」が 17.0%、「日本人より賃金が安い」が 16.8%などの順序であった。一方、「特にない」との回答は 43.6%で全体の半数近くとなっている。

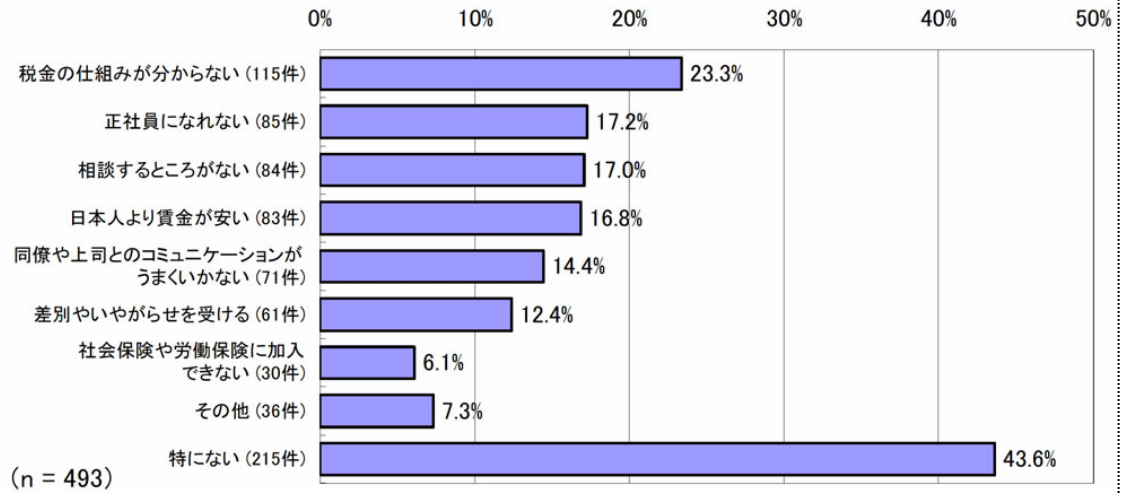


図 4-79 仕事をする上での心配事・不安（新潟県）

## 6) 防災について

### 防災について

- 母国語による「防災マップの配布」や「避難場所の案内をわかりやすくする」などの意見が多い。

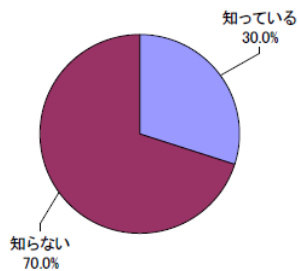
外国人は、災害弱者である。そのため、自助・共助・公助のなかに取り込み、特に地域のなかでサポートすることが望まれる。意見にあるとおり、母国語による防災マップの作成・配布を今後より進めていくことが望ましい。

### 「在住外国人に対するアンケート調査」(富山県)より

#### 防災に関する課題について

- 地震等の災害が起こったときには、4人に1人が「どうしたらいいかわからない」、また、7割の人が「地域の避難場所を知らない」としている。外国人の災害等への不安は大きいようだが、災害時における避難情報等が十分に周知されていない(または理解されていない)のではないかと考えられる。

#### 地域の避難場所を知っていますか



#### 災害にあったらどうしますか

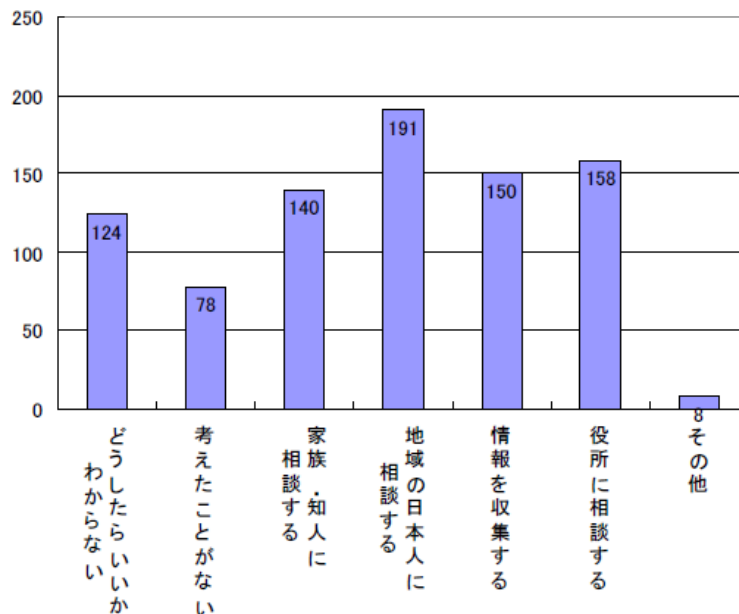


図 4-80 防災に関する課題(富山県)

「在住外国人に対するアンケート」(石川県)より

防災に関する課題について

- 避難場所を知っている人は 33%であり、「母国語による防災マップの配布」(約 43%)や、「災害時の母国への安否連絡等」(約 35%)、「災害時の外国人の避難誘導體制」(約 33%)などの対応を求める声が多い。

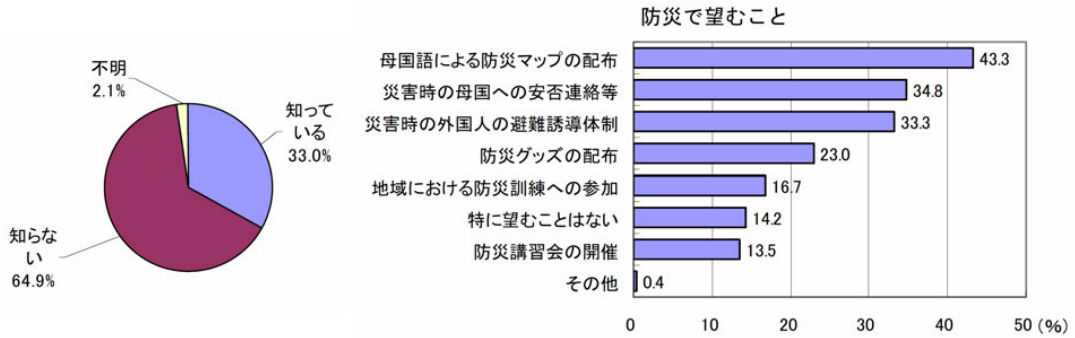


図 4-81 防災に関する課題 (石川県)

「新潟県在住外国人生活アンケート調査」(新潟県)より

防災に関する課題について

- 災害や緊急時の対応策として県や市町村に期待することでは、「避難場所の案内を外国人にもわかりやすくする」が 56.1%と過半数となった。以下、「日本語以外の言語による緊急時対応のパンフレットを配布する」が 46.3%、「緊急時に日本語以外で放送や誘導を行う」が 39.1%などの順序であった。

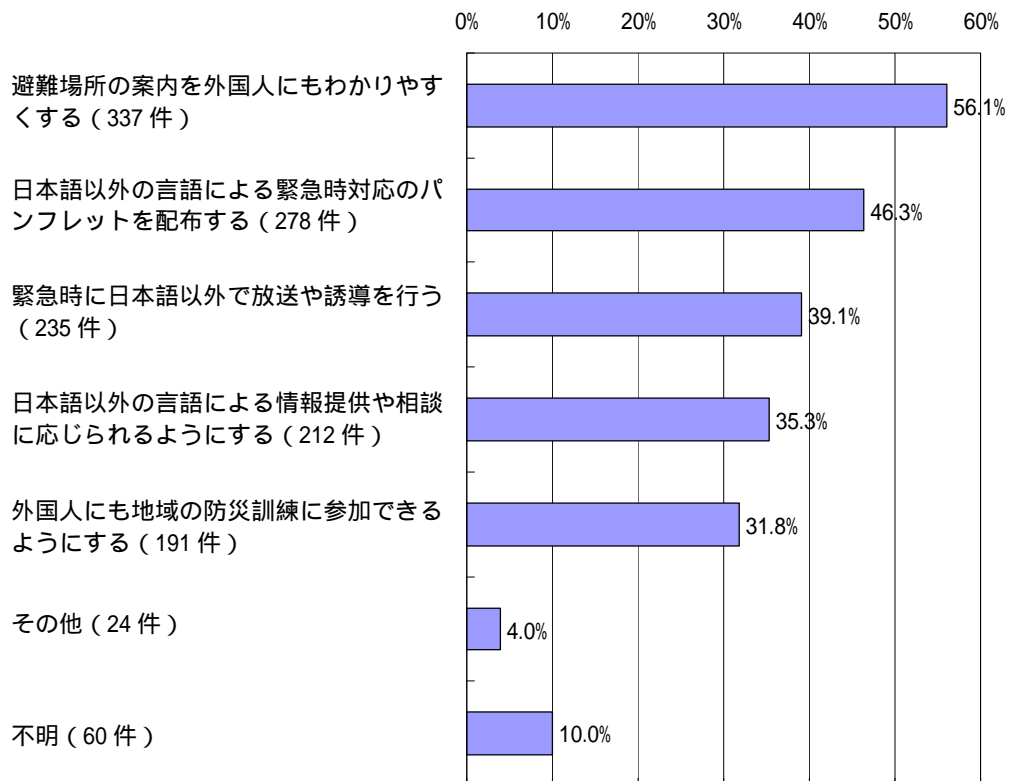


図 4-82 防災に関する課題 (新潟県)